

学年	教科等	単元名	児童	場所	指導者
くりの木（知的） さくら（情緒）	生活単元学習	「買い物名人になろう」	くりの木4名 さくら1名	くりの木 教室	宮原 希美絵 林 佳奈 (中枝 千春)

育てたい資質・能力

○生活単元学習において育成を目指す資質・能力から本時にかかわる主な資質・能力

生活する意欲・学ぶ意欲をもち、周囲の人とつながる力。（社会参加）

<本時にかかわる主な資質・能力>

買い物学習にすすんで取り組み、教師や友達とやりとりする力

1 単元について

(1)単元の目標

買い物学習を通して、自分で考えたり、行動したりしながら、周囲の人とつながることができるようにする。

本単元は、特別支援学校学習指導要領「各教科の基本的な考え方」

③生活単元学習(イ)

単元は、必要な知識・技能の獲得とともに、生活上の望ましい習慣・態度の形成を図るものであり、身に付けた内容が生活にいかされるものであること。

を受けて設定したものである。

本単元は、生活をする中で必要になってくる自立的な生活をするための基礎能力と、人との関わり方を身に付けさせることを学習のねらいとしている。「買い物名人修業の道」の学習を通して、買い物に必要な言葉を話すこと、人とのコミュニケーションを図ること、買い物の手順を知ること、目的に合う買い物ができるようにすること、買い物をしたら代金を支払うことなどについて自分で考えて行動することで、社会生活や自立に必要な知識や技能を身に付けることができるようにする。

様々な体験から自分の課題を見つけて、解決に向けて活動の見通しがもつことができる単元にするとともに、児童の実態に合わせ、国語や算数、自立活動とも関連をはかりながら単元を構成していく。

(2)児童の実態

A児 (4年男子)	<ul style="list-style-type: none"> ・コンビニに行って、おやつなどの自分が欲しい物を買うことができる。 ・お店のレジで硬貨やお札を使って代金を支払うことができる。 ・スーパーなどの大きな店では、店内を走り回って大きな声を出したり、商品を必要以上に手にしたりするなど、買い物時のマナー面での課題が大きい。 ・欲しい物があると代金を支払わずに店を出てしまうことがあった。 ・その時の感情に左右されやすく、言葉や行動が乱暴になり、相手に応じた言葉遣いが困難になるときがある。
--------------	--

<p>B児 (5年女子)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の欲しい物を選び、事前に用意されたお金をレジで支払うことができる。 ・商品の合計金額をおおよそ把握し、それに見合った代金を支払うことに自信がない。 ・決められた代金の中で、買い物をする経験が少ない。 ・一方的な話し方になりやすく、相手に分かりやすく伝えることに苦手意識がある。 ・友達から指摘されたことに対して言い訳が多くなり、相手のアドバイスを素直に受け入れることができないことがある。 ・語彙が少ないため、相手が不快になるような言葉を使ってしまうことがある。
<p>C児 (5年女子)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と一緒にスーパーに行く機会が多く、買い物の仕方や店員とのやりとりの仕方は、保護者の姿を見てよく知っている。 ・事前に決められた買い物のカテゴリーを守って買い物することができる。 ・100円玉5個と500円玉1個が同価であることが分かっており、教室内の学習場面では適切な硬貨を使って代金に応じて支払うことができる。 ・学級内の慣れた相手であれば、自分が思ったことや気付いたことを伝えることができるが、買い物に行ったときには困ったことがあっても自分から相手に話しかけることが難しい。 ・決められた予算内で複数の商品を購入することに自信をもつことが難しい。
<p>D児 (5年女子)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が欲しい物を決めて相手に伝えることができるが、発音が不明瞭なため、伝えたいことがうまく伝わらないことがある。 ・保護者と一緒に買い物に行く機会が多く、欲しい物を買い物かごに入れる経験は積んでいるが、その後のレジでの支払いや困ったときにお店の人に聞いたりする経験はない。 ・10円玉5個と50円玉1個が同価であることがまだ理解できず、全て10円玉を使って代金を支払うこともあり、支払いの際に大人の支援が必要である。 ・「だいたい、おおよその金額」などの思考が難しく、決められた予算の中で複数のものを買うときには支援が必要である。 ・電卓を使った計算はまだ難しい。
<p>E児 (4年女子)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と一緒にスーパーに買い物に行く機会があり、自分が欲しい物を決めて相手に伝えることができる。 ・店内では必要以上に大きな声で話したり、買い物と違う話題にこだわって話し出したりするなど、買い物のときのマナー面で課題が大きい。 ・欲しい物を買い物かごに入れる経験は積んでいるが、レジで支払いをしたり、困ったりしたときにお店の人に聞いたりする経験はない。 ・お金を支払うタイミングが理解できず、レジでのやりとりでは支援が必要である。 ・一方的な話し掛けが目立ち、相手との会話がかみ合わなかったり、相手が不快になる言葉や言い方をしてしまったりする場面が見られてきた。

(3) 個別の目標

A児	自分で買いたい物を決めることができ、場に応じた言葉遣いで周囲の人と会話することができる。
B児	自分で買いたい物を決めて、相手に伝えることができる。
C児	自分で買いたい物を相手に伝え、困ったときには聞くことができる。
D児	買い物の手順が分かり、相手を見てやりとりすることができる。
E児	自分で買いたい物を決めて、相手と場に応じたやりとりをすることができる。

(4) 指導の手立て

児童は、これまでに学級全員で生活単元学習に必要な材料の買い物活動を経験してきた。しかし、買い物活動の中で一人で考えて選択し、行動するという経験は少ない。そこで、「自分で考える力」を育てるために、買い物経験活動を設定した。条件付きの買い物から始めて、失敗経験から教室で行う「買い物名人修行の道」で自分の課題を解決し、学校で学んだことを生活に生かすことで、自分で必要な物を買うことができると考えた。

学級全員が買い物名人になるために、困ったときには直接聞いたり、カードを見せたりする活動を取り入れ、互いに助け合い、みんなで協力して高め合う活動ができると考えた。

2 単元の指導計画と個別の評価

(1) 単元の指導計画 【14時間扱い 本時6 / 14時間】

次	時	○学習活動	◇指導の手立て ■アクティブラーニングにつながる思考スキル
買い物に行こう その1	①	○オリエンテーション ・学習計画を立てる。「買い物名人になろう」	◇買い物経験を交流し、児童の関心を高める。 ■見付ける～単元の流れをイメージさせることで、買い物名人になりたい気持ちを高めさせる。
	②	○スーパーへ買い物に行く。 ・校外学習で行ったことのあるスーパーで、一人一人お楽しみ会のおやつを買う。	◇決められた金額で、自分のほしいおやつを買い取るように声掛けをする。 ■見付ける～何をかうか自分で判断し、主体的に行動する。
	③	○スーパーでの買い物の仕方を振り返る。 ・できたこと、できなかったことについて交流する。 ・スーパーよりも大きなお店で買い物をする計画を立てる。	◇視覚でとらえやすいよう、教室掲示として残す。 ■対話する～気付いたことについて教師と児童、児童間でやりとりをする。 ◇スーパーでできたことを褒め、更に買い物名人に近づきたいという気持ちを高めさせる。 ■予想する～どんなことに気を付けたらよいのか、イメージする。
	④	○ショッピングセンターで、買い物をする。 ・決められた時間、決められた金額で、学校で使う物を自分で買う。	◇スーパーでの買い物経験を想起させ、自分で行動しようとする姿を見守る。 ■つなげる～経験したことを身近な生活につなげて活動する。
	⑤	○ショッピングセンターでの買い物の仕方を振り返る。 ・できたこと、できなかったこと、教師がいなくて困ったことについて交流する。 ・個人のめあてを設定する。	◇できたことを褒めると共に、できなかったことと困ったことについて、解決策を提案する声掛けをする。 ■分ける～自分の行動を振り返り、できたこととできなかったことを分類する。

		・失敗経験から、「買い物名人修業の道」の学習計画を立てる。	◇できるよになりたいことや気をつけることについて考えさせる。
買い物名人修業の道	⑥本時	○くりの木ショッピングセンターで、買い物修業をする。 ・教師が準備したお店で、買い物をする。 ・一人ずつ買い物をしたり、周りで見ている。児童がアドバイスをしたり、気付いたことを発表したりする。	◇個人のためについて確認し、見通しをもたせようとする。 ■対話する～くりの木のショッピングセンターで教師のやりとりをする。買い物の様子から取ったことを児童間でやりとりする。
	⑦⑧⑨	○くりの木ショッピングセンター開店の計画を立てる。 ・どんな店を開く（開いてもらう）と買い物を名人になれるかを考える。 ・自分のお店を開くために、必要な物を考え、準備する。	◇買い物名人になるという意識付け活動として自分もお店屋さんになってみる。 ■見付ける～自分がすべきことを考え、行動する。
	⑩⑪	○くりの木ショッピングセンターを開く。 ・課題達成を目指して、友達のお店で買い物をする。 ・お店屋さんとして、買い手のよかったところを発表する。	◇活動のめあてを確認させ、できるようになったことや分かったことを考えさせる。 ■評価する～友達のよさや自分ができたことについて発表する。
買い物に行こう その2	⑫	○買い物名人の腕試しをする。 ・自分たちで買い物の計画を立てよう。	◇学習したことを生かせる目的地を選べるように、声掛けをする。
	⑬	○△△へ買い物に行く。 ・計画をもとに、今までの経験を活かして買い物をする。	◇困ったときの解決策が分かるように、学んだことをまとめたヒントカードを用意する。 ◇活動を見守り、自分でできたという達成感を味わわせる。
	⑭	○「買い物名人になろう」の学習について絵や文でまとめる。 ・学習で分かったことやできるようになったことについて、まとめる。	◇以前と今回の活動を比べながら、振り返らせる。 ■評価する～単元を通して学んだことについて言葉や文字で発表する。

(2) 個別の評価

A児	マナーを守って自分の買いたい物を決め、場に応じた言葉遣いで周囲の人と会話をしている。
B児	決められた金額の中で自分の買いたい物を決め、自分の思っていることを相手に正しく伝えている。
C児	決められた金額の中で自分の買いたい複数の商品を決め、困ったときには周囲の人に自分から聞いている。
D児	買い物の手順に沿って自分の買いたい物を決め、相手をしっかりと見て会話をしている。
E児	マナーを守って自分で買いたい物を決め、店員や友達とやりとりしながら、活動している。

3 本時の学習

(1) 本時の目標

買い物学習の中で自分で気づき、やりとりしながら、教師や友達とつながることができる。

(2) 本時の個別目標

A児	友達のよさを見付けて、伝えることができるようにする。
B児	困っている友達を助けることができるようにする。
C児	教師とやりとりをしながら、買い物をすることができるようにする。
D児	教師の顔を見て、やりとりすることができるようにする。
E児	友達のよさを見付けて、具体的に伝えることができるようにする。

(3) 本時の展開【14時間扱い6 / 14時間目】 *一単位時間レベルB-② (対話重視)

	子どもの活動	思考	教師の働きかけ ◆評価
導入 5分	<p>1 前時までの学習を振り返る。 「買い物名人になるために、できるようになりたいことを決めました。」</p> <p>2 個人のためを発表する。 「困ったときに、店員さんに自分から聞くようになりたい。」 「自分のほしい物を決めることができるようになりたい。」 「お金をきちんと払うことができるようになりたい。」</p> <p>3 学習内容を知る。 「先生が作ったお店で買い物をするんだ！」</p>	<p>個</p> <p>全体</p>	<p>□前時までの活動を想起させ、活動への意欲をもたせる。</p> <p>□声に出して発表することで、できるようになりたい自分をイメージさせる。</p> <p>□友達のためを聞いて、買い物学習でアドバイスをする観点にする。</p> <p>改善のポイント①～自分たちで学習している意識～ 「先生が作った店」ではなく、自分たちの教室で学習している意識をもたせるため、「くりの木教室にできた店」とする。</p> <p>□お店の見せ方を工夫して、児童の「やってみたい！」という気持ちにさせる。</p>
くりの木ショッピングセンターで買い物修業をしよう！			
展開 30分	<p>4 買い物の手順を想起する。 ・あいさつ「こんにちわ」 ・品物を選ぶ ・お金を払う ・あいさつ「ありがとうございました」</p> <p>5 お金の種類を確認する。 (本物の硬貨) ・1円, 5円, 10円, 50円, 100円 (総額500円)</p>	<p>全体</p> <p>全体</p>	<p>□これまでの買い物学習の活動がわかる掲示物を用意しておき、必要に応じて買い物の手順を確認する。</p> <p>改善のポイント②～説明・確認を省略する～ 効果的な掲示物を用いることによって、時間短縮をすることができ、展開部分で買い物の時間をしっかり確保することができる。</p>
	<p>6 一人ずつ買い物をする。 ・決まった金額で品物を選び、代金を支払う。 ・困ったときには、周りで見ている児童にアドバイスをもらう。 「どうやって聞いたらいいですか?」「どうやってお金を払ったらいいですか?」 ・買い物をしている児童が困っていたときに、アドバイスを求めてきたりしたとき、適切なアドバイスをする。 ～周りで見ている児童が、「助けますか?」のカードを見せる。</p> <p>7 一人一人の買い物で気付いたことや頑張っていたことを発表する。</p>	<p>全体</p> <p>個</p> <p>全体</p>	<p>改善のポイント③ ～買い物の約束の確認・教師の見本～ 買い物の約束を簡条書きでわかりやすくし、教師が見本を見せることで、学習のイメージをもたせやすくする。</p> <p>*目標達成に困り感のある児童への「支援の手立て」を明らかにする。 ～一人一人の目標を教師が把握し、児童が思考し、行動できるような問いかけをする。 「いらっしゃいませ」「何かお探しいですか?」「これがおすすめですよ。」</p> <p>◆C児～教師の問いかけに答えようとしている。</p> <p>◆D児～周囲のアドバイスに耳を傾け、教師の顔をみようとしている。</p> <p>*児童同士がつながる手立てをとる。 ～「学級全員が買い物名人になる」というゴールに向かっている意識をもたせるような声掛けをする。</p> <p>*支援ツールの工夫 ～タイミングを見てアドバイスできるカードを活用する。</p> <p>◆B児～つぶやきや支援カードを使って友達を助けようとしている。</p> <p>□できるようになったことを実感できるようにする。</p> <p>◆A児・E児～友達のよさを見付けて相手に伝えようとしている。</p>

終末 10分	<p>8 今日の学習を振り返る。 ・「これができた！」→がんばりカードにシールを貼る。 ・「買い物修業で買い物名人に近づいた。」</p> <p>9 次時の確認をする。 ・自分たちで「くりの木ショッピングセンター」を開こう。</p>	個	<p><input type="checkbox"/>この時間で頑張ったことや、次時に向けて楽しみなことについて考えさせる。</p> <p><input type="checkbox"/>自分のお店を開くことを予告し、次時の見通しや期待感をもたせる。</p>
-----------	---	---	---

(4) 本時の個別評価

A児	友達のよさに気づき、相手に伝えている。
B児	友達が困っているときに、アドバイスをしている。
C児	教師の問いかけに答えながら、買い物をしている。
D児	アドバイスに気づき、教師の顔を見て支払いをしている。
E児	友達のよさに気づき、支援カードを用いて具体的に伝えている。

4 取り入れたアクティブ・ラーニングの視点と授業改善のポイント

(1) 授業のねらい

【アクティブ化シートB-②（対話重視）】

～買い物名人修行の様子を互いに見てアドバイスやよさを伝え、社会性を育む

今までの買い物経験の中で、児童一人一人の困り感が見られたことから、買い物修業を行うことで自信をもたせ、よりよい生活経験をさせていきたいと考えた。修業をする中で、困ったときに教師や友達からアドバイスをもらったり、友達の買い物をする様子の中でよいところに気付いて伝えたりする場面を設定する。そこから、自分でできることが増えて、友達からの励ましで自信をもち、より相手とつながっていくことができる

(2) 成果

- 単元の指導計画を基に、子どもたちに学習の流れをイメージすることができるように構成を工夫した。「学級全員が買い物名人になる」というゴールを設定することにより、子どもたち同士が自然に助け合ったり、つながったりする姿が見られた。なかなか自分から声を掛けることができない子どもたちにとって、「たすけますか？」カードは有効であった。また、友達の買物の仕方についてアドバイスができなかった子も、友達の頑張りやよさを発表する時間を設定したことで、自分の考えを発表することができた。
- 一人一人の個別目標を教師が把握して発問したり、行動を促したりすることで、全員が目標を達成することができ、一人一人が達成感・成就感をもち、学んだことをすすんで普段の生活に生かしていこうとする姿勢が見られた。

(3) 改善

改善のポイント①

後の活動「くりの木ショッピングセンターを開こう！」につなげるため、もっと主体的な姿を見られるようにするには、「教師が作ったお店」で買い物をするのではなく、「自分たちの教室にできたショッピングセンター」で買い物をするということを意識させるため、お店紹介の仕方を工夫したらよいと考えた。

改善のポイント②

失敗経験も含めて買物の手順はわかりつつあったので、買い物時間をしっかり確保するために、今までの活動の流れがわかる掲示物を用いて教師の説明を省き、子どもたち自身で振り返りができるようにしたらよいと考えた。

改善のポイント③

買物の約束をよりわかりやすくするために、「買い物ミッション」として、箇条書きで提示する。また、教師が見本を見せることで、買物の仕方をイメージできるようにする。

1. 予算500円、時間4分で買い物するべし。
2. 困ったときには、店員さんや友達に聞くべし。
3. 困っている友達を助けるべし。
4. 友達の頑張りやよいところを見つけて伝えるべし。